

2022年度 修士課程入学試験（春期）

試験問題〔専門〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

問題A-1～E-9の中から志望研究指導の問題について解答しなさい。

志望研究指導以外の問題を選択した場合や2問以上解答した場合は採点されません。

問題記号	研究領域	ページ
A-1～7	スポーツ文化研究領域	P. 1
B-1～8	スポーツビジネス研究領域	P. 2～3
C-1～17	スポーツ医科学研究領域	P. 4～7
D-1～6	身体運動科学研究領域	P. 8～9
E-1～9	コーチング科学研究領域	P. 10～11

A. スポーツ文化研究領域

A-1 研究指導名：スポーツメディア論（トンプソン リー A.）

「メディアは現実を構成する」。この命題について、スポーツに関連して論じなさい。

A-2 研究指導名：スポーツ史（石井 昌幸）

スポーツの「いま」を「〇〇（文字数自由）の時代」と名づけるとしたら、何の時代と呼ぶのが相応しいと思いますか。以下の（１）～（３）の点に留意しながら、現代のスポーツは「〇〇の時代」である、と呼べる理由を論じなさい。（１）その時代は、いつから始まったと考えられるか。（２）その時代は、それまでの時代と、どこが（特に質的に）異なるか。（３）そのように呼べる根拠となる具体的な歴史事象を複数あげながら論じること。

A-3 研究指導名：舞踊論（杉山 千鶴）

「ロマンチック・バレエ」と「クラシック・バレエ」のそれぞれの特性と両者の相違について述べよ。

A-4 研究指導名：体育科教育学（吉永 武史）

生徒の主体的学習を促すための体育の授業づくりのポイントを、教材ならびに学習形態の視点から述べなさい。

A-5 研究指導名：スポーツ教授学（深見 英一郎）

スポーツ指導者の指導技術を３つ挙げ、それぞれについて解説しなさい。

A-6 研究指導名：スポーツ社会学（中澤 篤史）

スポーツ社会学に関する研究計画を１つ作成しなさい（出願書類に記された研究計画と同じテーマで書いても良いし、違うテーマで書いても良い）。ただし、下の囲み内の用語をすべて用いること。

問い	学術的背景	研究目的	先行研究	仮説	研究方法	分析枠組み
理論	学術的意義	分析対象	データ	研究倫理	スポーツ科学	社会学

A-7 研究指導名：スポーツ文化論（川島 浩平）

スポーツ文化研究の実例を具体的に一つ挙げ、その内容を説明し、評価しなさい。

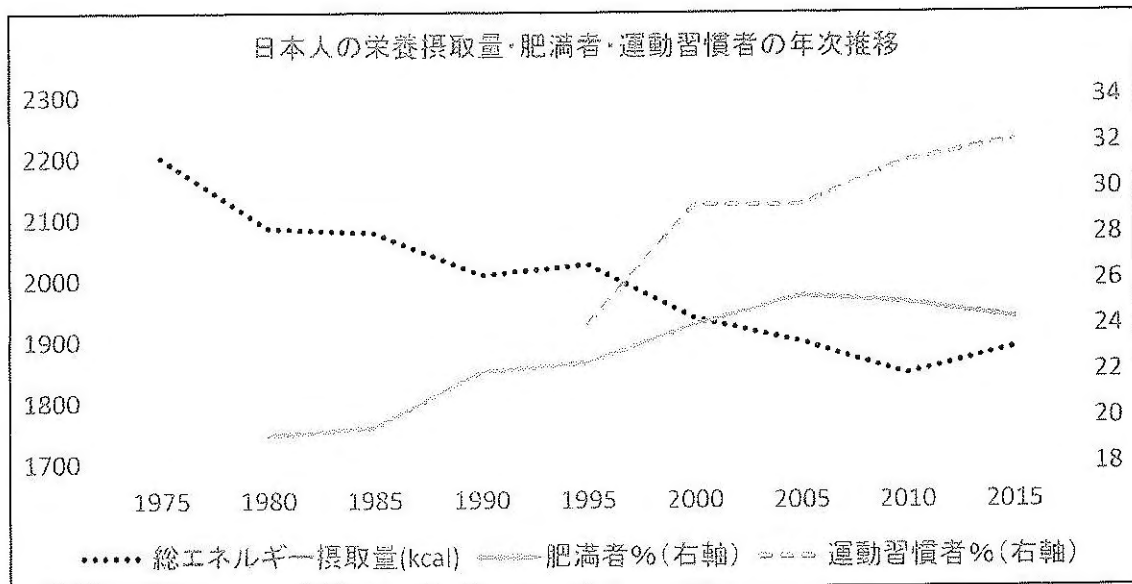
B. スポーツビジネス研究領域

B-1 研究指導名：スポーツ経営学（木村 和彦）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会後の、わが国における体育・スポーツ経営について考えることを述べなさい。

B-2 研究指導名：健康スポーツ論（中村 好男）

下図は、日本人の一日当たり栄養摂取量 (kcal)・肥満者の割合・運動習慣者の割合の年次推移を示したものである（いずれも推計値）。1980 年代以降、運動習慣者が増えて栄養エネルギー摂取量が減少しているのに、なぜ肥満者が増えたのか。解説せよ。



(厚生労働省・国民栄養調査結果より抜粋)

B-3 研究指導名：スポーツクラブビジネス論（間野 義之）

教員の働き方改革を受けて、学校運動部活動の地域スポーツクラブ産業への移行が進められていますが、産業化に際しての課題について具体的な事例をあげて説明してください。

B-4 研究指導名：トップスポーツビジネス論（平田 竹男）

2021 年夏に行われた 2020 オリンピック東京大会では、27 個もの金メダルをはじめ、合計 58 個のメダル獲得など、大変な盛り上がりを見せました。特に新種目のスケートボードで男子は堀米雄斗選手、女子では西矢椛選手、四十住さくら選手、開心那選手、中山楓奈選手などがメダルを獲得するなど若い日本人選手の大活躍もあり多くの報道に取り上げられました。

今あなたがスケートボードの協会会長であると仮定し、スポーツビジネスとしてスケートボードを発展させる方法を、逆台形モデルの考え方に基づいて論述しなさい。

B－5 研究指導名：スポーツ組織論（作野 誠一）

中央競技団体（各スポーツ競技について国内のスポーツを統轄する団体）にガバナンスが求められている背景および対策について知るところを述べよ。

B－6 研究指導名：スポーツビジネス・アドミニストレーション（武藤 泰明）

米国の4大プロスポーツには、大企業のチームスポンサーがほとんど見られません。この理由を解説してください。

B－7 研究指導名：スポーツビジネスマーケティング（松岡 宏高）

スポーツ観戦者の満足に関して示された以下の2点について論理的に説明せよ。

- （1）スポーツ観戦者の満足度はどのような場合に高まるのか
- （2）その満足度はチーム（球団・クラブなど）にとってどのように重要であるのか（あるいは重要でないのか）

B－8 研究指導名：スポーツビジネス法（松本 泰介）

新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツイベントの観客にクラスターが発生した場合、当該イベントの主催者はどのような場合に損害賠償責任を負うか。主催者としての安全配慮義務の内容を中心に述べなさい。

C. スポーツ医科学研究領域

C-1 研究指導名：運動免疫学（赤間 高雄）

アスリートのコンディションを評価する方法について、以下の単語をすべて用いて説明しなさい。
（防衛体力） （免疫） （自律神経） （内分泌）

C-2 研究指導名：運動器スポーツ医学（鳥居 俊）

腰椎分離症に進行しうる疲労骨折は中学生期に好発する。その理由や予防方法について述べなさい。

C-3 研究指導名：健康行動科学（岡 浩一朗）

高齢者のフレイル予防の観点から、コロナ禍における高齢者の座りすぎ問題とその対策をどのように進めていくべきかについて述べよ。

C-4 研究指導名：スポーツ整形外科学（金岡 恒治）

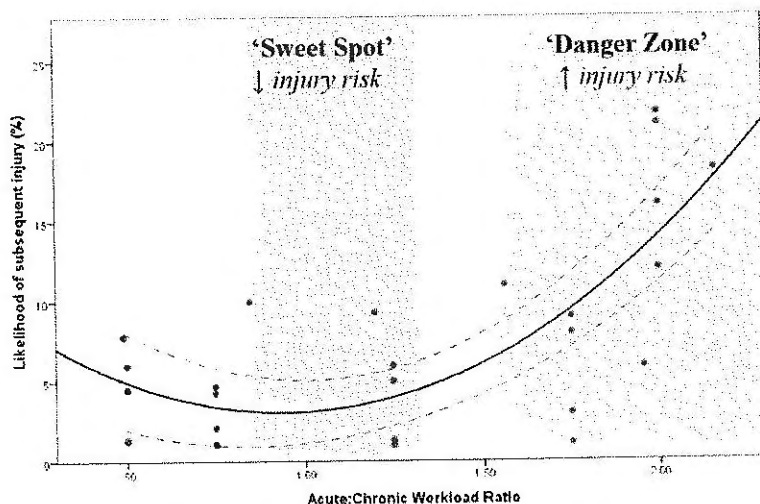
腰椎由来の坐骨神経痛の発症機序とその予防対策について知るところを述べよ。

C-5 研究指導名：予防医学（鈴木 克彦）

サルコペニア (sarcopenia) の病因について詳述し、その予防方法について知るところを述べよ。

C-6 研究指導名：アスレティックトレーニング（広瀬 統一）

下の図はTim J Gabbett (2016) が提唱する急性：慢性運動負荷比とスポーツ外傷・障害受傷リスクとの関係を表したものである。急性：慢性運動負荷比とは、直近一週間の負荷を急性運動負荷、過去三～六週間の負荷の平均値を慢性運動負荷として、その比を示す。急性運動負荷が慢性運動負荷を上回る場合に負荷比は1.0を越える。下の図は横軸にこの負荷比を、縦軸に外傷・障害発生リスクを示している。この図が示すことを読み解いて簡潔に説明した上で、自身がこの考え方に同意するか否かを明示し、その立場をとる理由を説明せよ。



（出展：Gabbett TJ. (2016). The training-injury prevention paradox: should athletes be training smarter and harder? Br J Sports Med, 50:273-280.）（※1）

C-7 研究指導名：筋生物学（秋本 崇之）

ヒト骨格筋線維タイプについて述べよ。

C-8 研究指導名：運動代謝学（宮下 政司）

身体活動の習慣化が食欲に及ぼす影響について、知ることを述べよ。

C-9 研究指導名：運動器スポーツ機能解剖学（熊井 司）

バレーボール選手が内がえしによる“足関節捻挫”を受傷した。この選手について考えられる病態と初期治療について、以下の5つのキーワードをすべて用いて解説せよ。

キーワード：外側靱帯、関節不安定性、骨軟骨損傷、アイシング、固定

C-10 研究指導名：健康教育学（石井 香織）

健康教育学の理論を援用し、子どもの健康増進を実現するためにはどのような方策が考えられるか。具体例を挙げ述べよ。

（※1）WEB掲載に際し、著作権者からの要請により、出典を追記しております。
Gabbett TJ The training-injury prevention paradox: should athletes be training smarter and harder? British Journal of Sports Medicine 2016; 50:273-280.
<http://dx.doi.org/10.1136/bjsports-2015-095788>

C-11 研究指導名：スポーツ神経精神医科学（西多 昌規）

設問A、Bに解答してください。

- A. アスリートにおける日中の仮眠の有用性と問題点について、知るところを述べてください。
- B. 体内リズムの指標である深部体温の日内変動について、説明してください。またメラトニンの分泌メカニズムについて、解剖学部位や日内変動を交えて、説明してください。

C-12 研究指導名：スポーツ疫学（澤田 亨）

疫学研究における「因果の逆転」とはどのようなものか説明せよ。

C-13 研究指導名：アスレティックパフォーマンス（平山 邦明）

アングルホップとパワークリーンは、いずれも爆発的パワーの向上に有用なエクササイズとされる一方で、爆発的パワー向上のメカニズムが異なる。爆発的パワー向上という観点から2つのエクササイズの違いを答えよ。

C-14 研究指導名：環境運動生理学（細川 由梨）

以下は Vanos & Grundstein (2020) から抜粋した研究結果の一文である。抜粋文を読んだ上で設問に答えよ。

Meteorologic conditions that yielded the same WBGT levels resulted in different maximum heat-loss potential values depending on whether it was an hot-dry or warm-humid environment. Therefore, although a seemingly equivalent "heat-stress" situation was present, the ability of the body to lose heat was greater under hot-dry than warm-humid conditions. (※2)

- 1) 湿球黒球温度に基づいた運動ガイドラインの利点と限界点について述べよ。

引用文献：

Vanos JK, Grundstein AJ. Variations in Athlete Heat-Loss Potential Between Hot-Dry and Warm-Humid Environments at Equivalent Wet-Bulb Globe Temperature Thresholds. J Athl Train. 2020;55(11):1190-1198. doi:10.4085/1062-6050-313-19

C-15 研究指導名：スポーツ生化学・遺伝学（谷澤 薫平）

一般的に、ゲノムワイド関連解析（genome-wide association study：GWAS）によりある形質に関連する遺伝子バリエーションを同定するためには、非常に大きなサンプルサイズが必要とされる。その理由を説明せよ。

C-16 研究指導名：スポーツ生理学（前田 清司）

加齢に伴う有酸素性能力の変化を述べ、それに及ぼす運動トレーニングの影響について説明しなさい。

（※2）WEB掲載に際し、著作権者からの要請により、出典を追記しております。

6 Vanos JK, Grundstein AJ. Variations in Athlete Heat-Loss Potential Between Hot-Dry and Warm-Humid Environments at Equivalent Wet-Bulb Globe Temperature Thresholds. J Athl Train. 2020;55(11):1190-1198. doi:10.4085/1062-6050-313-19

C-17 研究指導名：応用生理学（宮地 元彦）

全身持久力の指標である最大酸素摂取量の決定に関与する生理学的要因について記述しなさい。

D. 身体運動科学研究領域

D-1 研究指導名：生体ダイナミクス（川上 泰雄）

関節運動に関する協働筋と拮抗筋のはたらきについて、知るところを述べなさい。

D-2 研究指導名：スポーツ心理学（正木 宏明）

覚醒水準とパフォーマンスとの関係について、競技不安の個人差を踏まえて説明しなさい。

D-3 研究指導名：統合運動神経生理学（宝田 雄大）

以下の2問のいずれかを選択し、その設問に解答しなさい。

- A) 「火事場の馬鹿力」に代表される潜在筋力があるとすると、その発生原因にはどのようなことが考えられるであろうか。あなたの考えを述べよ。
- B) Takarada et al. (2000) は、局所的な血流制限下のレジスタンス（加圧）トレーニングでは、たとえ低強度でも、高強度の場合に匹敵する筋肥大をともなった筋力増加を引き起こすことを明らかにした。このメカニズムには、筋収縮のメカニカルストレスによるタンパク同化シグナル経路活性に加え、①追加的な運動単位の動員、②血漿成長ホルモン濃度の増加、③血中インスリン様成長因子（IGF-1）の増加、④筋由来 IGF-1/mechano-growth factor の増加、と myostatin の減少、⑤一酸化窒素を含めた、活性酸素種の影響等の要因が考えられている（Takarada, 2010; 2016）。①（追加的な運動単位の動員）を引き起こすための有効なトレーニング法（加圧トレーニング以外）についてあなたの考えを述べよ。

D-4 研究指導名：バイオメカニクス（矢内 利政）

競技スポーツにおける身体運動の力学的なメカニズムを紐解く際に、角運動量の概念を理解しておくことは極めて重要である。そこで、高飛び込みにおける、『前飛込（前を向いて前方へ回転する飛び込み開始方法）』の後に『高速度の前方宙返り（身体左右軸まわりの回転）』と『捻り（身体長軸まわりの回転）』を順に行った後に『低速度の前方宙返り』となって入水するという一連の技に着目して、以下の問に答えよ。

1. 空中期に身体の有する角運動量は保存されているにもかかわらず、回転速度を変化させ得るのはなぜか？そのメカニズムについて力学用語を用いて詳しく説明し、宙返り速度を最大化および最小化するための身体姿勢をそれぞれ図示し、その特徴を記せ。
2. 宙返りしていた高飛び込み選手が空中期に『捻り』を開始させ得るのはなぜか？そのメカニズムについて力学用語を用いて詳しく説明せよ。また、『高速度の前方宙返り』を行っている選手はどのような動作を行うことによって『捻り』を開始させているかについても解説せよ。

D-5 研究指導名：スポーツ栄養学（田口 素子）

スポーツ選手の朝食欠食習慣がもたらす影響について、代謝的な観点から説明しなさい。

D-6 研究指導名：運動生理学（林 直亨）

安静時および最大運動時の、換気量、心拍出量、筋血流量を、一般人と持久的競技者とで比較し、それらの値が類似であることや異なることが、①何に起因するのか、②何をもたらすのか、について述べなさい。

E. コーチング科学研究領域

E-1 走運動・コーチング科学（磯 繁雄）

パラアスリートには、「ないものを探すよりも可能な機能を最大限に活かせ!」といった精神が存在する。では、あなたが選んだスポーツ種目の中でパラ選手が健常者とトレーニングする際に次のキーワードの意味を含めた上で活動環境設定し、その環境を充実するためのコーチング計画を述べよ。

（キーワード：勝利、生きるための身体活性化、サポーター）

E-2 トップスポーツコーチング科学（奥野 景介）

東京オリンピック・パラリンピックにおいて、特定の競技を対象として、コーチングスキルの側面から、競技結果及びプロセスを評価し、2024 年に向けてコーチ（指導者）の資質向上を図るためにはどのような取り組みが必要か自分の考えを述べなさい。

E-3 スポーツコーチング学（土屋 純）

特定のスポーツ種目について、その競技特性とトレーニング対象を明確にし、人間の運動技能と体力要素の発達の特徴を踏まえた一貫指導の在り方を論じなさい。

E-4 コーチング心理学（堀野 博幸）

「リーダーシップとフォロワーシップ」の観点から、育成年代のコーチングで留意すべきことをスポーツ現場での具体例を示しながら説明しなさい。

E-5 ボールゲーム戦術戦略論（倉石 平）

強化をするにあたり育成期間が重要視されています。育成期間での指導で注意をしなければならない事柄をできる限り述べてください。

（キーワード：二次成長期、個人差異、クラムジー）

E-6 トレーニング科学（岡田 純一）

以下の2つの問いに答えなさい。

- ① 対象者の競技種目や競技レベルを任意に設定し、6ヶ月先の競技会に向けた体力トレーニングについて、期分けと各期における達成目標を示しなさい。
- ② また、そのうち一つのトレーニング期を選び、実施するトレーニング内容を詳述しなさい。

E-7 チームスポーツコーチング論（松井 泰二）

1つの競技を取り上げ、その選手を評価する基準や指標を取り上げ、その数値も示しなさい。その際に競技名や種目を明示し具体例を用いて説明しなさい。

E－8 武道のコーチング学（射手矢 岬）

「柔よく剛を制す（小よく大を制す）」は、どのような技の攻防で具現するか、
“いなす”、“かわす”、“すかす”などの用語を用いて説明しなさい。

E－9 冬季スポーツコーチング学（藤田 善也）

冬季スポーツにおいて、いくつかの環境要因がパフォーマンスに及ぼす影響について説明したうえで、パフォーマンスを高めるための方策について論じなさい。

(表面より続く)